

- 問1 室町時代、細川氏が実権を握り、明との間で行われた貿易を何という？
- 問2 応仁の乱以降、農民や武士が団結して守護大名を倒し、自分たちで地域を治めた動きの一つを何という？
- 問3 室町時代に歌舞劇である能を芸術的に高め、大成させた、室町幕府の第3代将軍は誰か？
- 問4 禅宗の影響を受けて発展した、石や砂などで山水を表現する東山文化を象徴する庭園様式は何？
- 問5 応仁の乱の後、実力のある者が上の立場の者を倒して勢力を広げた、戦国時代の風潮を何という？
- 問6 室町時代に惣村で村の運営のために行われた、住民による話し合いの集会を何という？
- 問7 室町時代、東山文化を代表する建築物である銀閣（慈照寺）を建てた、室町幕府の8代将軍は誰？
- 問8 室町時代、大規模な内乱の最中に建立され、その後の日本文化の礎となった建物を何という？
- 問9 室町時代の定期市において、広く流通していた中国から輸入された銅銭を何という？
- 問10 建武の新政が行われていた期間の混乱ぶりを風刺し、当時の社会状況を伝えるために作られた落書きを何という？
- 問11 15世紀に沖縄本島を統一し、琉球王国を建国した人物は誰ですか？
- 問12 室町文化において、武士の精神に大きな影響を与え、水墨画や書院造の基礎となった教えを何という？
- 問13 琉球王国が中継貿易を行う上で、最も重要な窓口となっていた当時のアジアの大国を何という？
- 問14 室町時代、農民たちが借金の帳消しを求めて、高利貸しなどを襲撃した出来事を何という？
- 問15 室町時代、幕府が債務者の借金を帳消しにするために出した法令を何といいますか？
- 問16 中世において、寺社の門前や交通の要所に、決まった日にちや回数で開かれる商業活動の場を何といいますか？
- 問17 尚氏が沖縄本島を統一し、琉球王国を建てた時期はいつ頃？
- 問18 足利義政の後継者争いをきっかけに発生した応仁の乱は、何年間続いた？
- 問19 室町時代に質屋を営み、酒屋とともに金融業として富を蓄えたのは何？
- 問20 室町時代、農民たちが「寄合」を通じて村の運営を独自に行うようになった村の組織を何というか？
- 問21 浄土真宗の信仰で結びついた武士や農民が、加賀国で倒した守護大名は誰ですか？

答え合わせ・解説

問1	答え 勘合貿易	足利義満が開始した勘合貿易は、明の皇帝が発行した証明書である「勘合」を所持した船のみが貿易を許可される仕組みです。これにより倭寇と区別され、円滑で利益の大きい貿易が可能となりました。細川氏や大内氏といった有力な守護大名がこの貿易の実権を争い、大きな利益を得ました。
問2	答え 一向一揆	一向一揆は、浄土真宗の強い信仰で結ばれた民衆が指導者のもとに組織的に戦ったものです。彼らは守護大名を追放し、加賀国のように長期間にわたり自分たちの支配を確立する地域もありました。
問3	答え 足利義満	義満は、観阿弥・世阿弥の父子による猿楽（能）の才能を高く評価し、強力な後援者となりました。これにより、能は庶民の芸能から武家社会でも愛される芸術性の高い芸能へと進化しました。また、彼は金閣を建てるなど北山文化を築いたことでも知られています。
問4	答え 枯山水	枯山水は、池や川などの水を用いず、白砂や石の配置によって、山水の風景や海、大自然の深淵さを表現する庭園様式です。見る人の想像力に訴えかける「わび・さび」の精神が重視されました。
問5	答え 下剋上	「下剋上」とは、下位の者が上位の者を実力で倒して支配権を奪う、戦国時代特有の世の中の秩序を指します。守護大名が家臣や国人に実権を奪われる事態が各地で相次ぎました。
問6	答え 寄り合い	「寄り合い」は、村の運営に関わる重要な事項を決定するための集会です。ここで村独自のルールである「惣掟」を定めたり、年貢の配分や用水路の管理などについて話し合ったりしました。農民たちは対等に近い立場で議論に参加しました。
問7	答え 足利義政	足利義政は、政治への関心を失う一方で、禅宗の思想の影響を受けた「わび・さび」という独特の美的感覚を深めました。自らの山荘として慈照寺（銀閣）を建て、そこを拠点に東山文化を花開かせました。
問8	答え 応仁の乱	1467年に始まったこの戦いは、全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、日本全土に広がりました。これにより、室町幕府の権威は地に落ち、京都の街は焼け野原となりました。
問9	答え 宋銭	宋から輸入された「宋銭」や、後の明から輸入された「明銭」が流通し、人々の生活に浸透しました。これにより、年貢も米だけでなく銭で納められることが増え、商品経済が飛躍的に活性化しました。
問10	答え 二条河原の落書	二条河原の落書は、当時の世の中の様子や政治の混乱を風刺した文章です。二条河原（現在の京都市内）の壁などに書かれたとされており、当時の庶民や武士が感じていた政府への不信感が鋭い言葉で表現されています。
問11	答え 尚巴志	中山の王であった尚巴志は、優れた軍事力と外交手腕を駆使し、1429年に沖縄本島を統一して琉球王国を建国しました。首里を王都と定め、後の琉球王朝の基礎を築きました。
問12	答え 禅宗	禅宗は、単なる宗教だけでなく、茶の湯や華道、水墨画などの芸術にも強い影響を与えました。室町時代の文化の中心地となった京都の五山寺院を中心に、多くの僧侶が教えを広め、質素で引き締まった精神性を重視する独自の文化が形成されました。
問13	答え 中国	琉球王国は明の皇帝から認められることで、東南アジア諸国との貿易を自由に行うことができました。中国から手に入れた陶磁器や絹織物などを、日本や東南アジアへ運ぶことで、東アジアにおける物流の要所としての役割を果たしました。この貿易ルートのおかげで、琉球王国は短期間で急激な経済発展を遂げることができました。
問14	答え 土一揆	土一揆は、主に農民たちが団結して、高利貸しである土倉や酒屋を襲撃し、借用書を破棄させるなどして借金の無効を訴えた運動です。
問15	答え 徳政令	徳政令は、借金の免除を命じる法令のことです。幕府がこれを出すことで、農民や困窮した武士は借金の返済義務から免れました。正長の土一揆などの大きな一揆が発生した際、民衆の要求に応じる形で幕府が発布したのが有名です。
問16	答え 定期市	寺社はその権威と安全性を背景に、参拝者が集まる門前や街道の要所に定期市を開かせました。決まった日に開かれるこの市は、農村や都市の人々が物資を交換する場となり、経済の中心地として発展しました。
問17	答え 15世紀	15世紀に入り、尚巴志が各地の勢力を平定して沖縄本島を統一し、琉球王国を建国しました。この国は、東アジアの海域ネットワークの中心として、中国や日本、東南アジアとの中継貿易によって大きな繁栄を遂げました。
問18	答え 11	この戦乱は11年もの長期間にわたって続きました。京都の主要な施設や町並みはことごとく焼き払われ、幕府の権力は形骸化しました。全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、地方にも戦火が広がり、秩序が大きく崩れました。
問19	答え 土倉	「土倉（どそう）」は、もともと商品を保管する倉庫を指していましたが、預かった商品を担保にして金を貸す質屋のような役割を持つようになりました。酒屋とともに幕府から営業の認可を得る代わりに税を納めることで、幕府の重要な財源となりました。
問20	答え 惣村	惣村は、村人が共同で地主や守護大名に対抗するための組織でした。村人たちは「寄合」を開いて村のルールを決めたり、用水路の管理を行ったりしました。また、守護大名が過度な年貢を取りに来たときには、団結して抵抗する権利も持っていました。これにより、中世の村は高い自主性を持つようになりました。
問21	答え 富樫政親	当時の加賀国では、守護大名の富樫政親が教団の勢力を抑えようと対立を深めました。これに対し、1488年に門徒らが蜂起し、守護所を襲撃して政親を自害に追い込みました。